



こんにちは♪

民主 苦小牧号外

2026年
1.18
No.1125



日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!

不破哲三さんを偲んで

昨年の12月30日、不破哲三さんが亡くなりました。不破さんは、日本共産党中央委員会の前議長です。議長を退いてからは、社会科学研究所の所長として日本共産党の知能的な役割を果たし、日本共産党の未来社会論を築くために大きな役割を果たしました。

私が日本共産党に入党したのは、不破さんがきっかけです。33年前に党創立70周年記念講演があり、私は友人に誘われて聞きに行きました。その時に講演をしたのが、当時日本共産党の委員長だった不破さんでした。

大企業優遇政治と自民党の金権腐敗が続いている時に、国民の暮らし優先で大事な税金を使うという“あたりまえ”のことを、平和と民主主義を貫いてきた党の歴史とともに、わかりやすい言葉で語る不破さんの話しに衝撃でした。そして、私は日本共産党に入りました。

この頃、天安門事件（1989年）やソ連崩壊（1991年）があり、その影響から日本共産党は議席を大きく減らしました。政治情勢は「自民か非自民か」がクローズアップされ、日本共産党は「かやの外」でした。自民党はゼネコン汚職などで国民の批判を浴びており、そこで生まれたのが細川内閣、続いて羽田内閣でした。

その時の様子を、日本共産党の志位和夫議長は「下りのエスカレーターを逆に駆け上がっているような、なかなか前に進まない、そういう気持ちを味わった選挙だった」と語っています。しかし、情勢の潮目が表れます。非自民の新内閣は自民党と結束を強め、“ニセ”非自民政権は崩れ、自民・社会・さきがけ政権がつくられます。しかし、バブル崩壊後の景気低迷や金融政策の破綻による強引な不良債権処理による国民と事業者いじめなどで国民の不満は膨らみます。唯一大銀行・大企業優遇政治に対する対案を示していたのは、日本共産党だけであり、96年と98年の選挙で躍進を果たしたのです。

この大きな政治の転換期ともいえる時代に、論戦をはって先頭に立っていたのが不破さんでした。私にとってものすごく頼もしく大きな存在でした。

不破さんは、亡くなる数日前に「僕はもう体力はないけれど、頭を使って人類が幸福になるための仕事をしたい。それが希望だ」と語ったそうです。この志を引き継ぐために、私はもっと力を付けたいと感じています。